

高石市教育委員会定例会会議録

(令和4年8月定例会)

開会及び閉会の年月日時

開 会	令和4年8月10日 午後3時00分
閉 会	令和4年8月10日 午後3時40分

会議に出席した者の職及び氏名

委 員	教 育 長 : 木 寄 茂 巳 委 員 : 西 中 隆 委 員 : 佐 野 慶 子 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一
事務局職員	教 育 部 長 : 村 田 佳 一 教育部次長兼 社会教育課長兼公民館長 : 佐 藤 信 雄 教育部次長兼 学 校 教 育 課 長 : 松 田 訓 一 教育部こども未来室長 : 家 村 美 雪 教 育 総 務 課 長 : 綾 井 康 浩 学 校 教 育 課 長 代 理 : 杉 原 敦 史 教育研究センター所長 : 阪 口 敏 基 こども家庭課長 : 吉 村 あかね 子 育 て 支 援 課 長 : 阪 上 徹 教 育 総 務 課 : 中 阪 三 明

議題及び議事の要旨及び議決事項

・ 議案第1号 高石市郷土史研究委員の委嘱について

次長兼 社会教育課長	議案第1号、高石市郷土史研究委員の委嘱について、説明します。 本議案は、高石市郷土史研究委員設置規則第5条の規定に基づき、委員の任期満了に伴い、2ページの委嘱者名簿のとおり高石市郷土史研究委員の委嘱をお願いします。 いずれの方も本市の歴史に関する深い関心と理解を有し、職務を行うのに必要な熱意と能力を有する方で、高石市郷土史研究委員として適任です。 なお、委嘱日については、令和4年9月17日、任期については、令和6年9月16日までとなっております。
採決	可決

・ 報告第1号 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価結果報告書（令和3年度対象）について

教育総務課長	報告第1号、令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価結果報告書（令和3年度対象）について、報告しま
--------	--

	<p>す。</p> <p>資料の令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価結果報告書（令和3年度対象）本編をご覧ください。</p> <p>1ページから2ページには、点検・評価の概要及び点検・評価の手法について掲載しています。</p> <p>次に、3ページには、実施方法について、達成度（自己評価）として数値目標などについての基準を含め、記載しています。</p> <p>次に、4ページから12ページには、教育長・教育委員会委員名簿、教育委員会会議状況、その他教育委員会の活動、教育委員会事務局の組織、事務局事務分掌を掲載しています。</p> <p>次に、13ページ、14ページには、決算額の推移として、平成31年度から令和3年度までの教育費の決算額を前年度との比較と併せて掲載しています。</p> <p>次に、15ページには、令和3年度点検・評価一覧表を掲載しており、点検・評価項目として、学校教育課が9件、社会教育課が7件、教育総務課が1件の合計17件です。また、達成度は、17件中Aが8件、Bが9件となっています。</p> <p>次に、16ページから41ページには、各項目ごとの令和3年度の点検・評価シートを掲載しており、各担当課の主要事務について目的と令和3年度の目標、主な取組と数値で表される実績及び効果、達成度（自己評価）の説明及び今後の課題を各シートにまとめております。</p> <p>最後に、42ページには、点検・評価委員の名簿と今回の点検・評価に係る意見を掲載しています。</p> <p>その下に教育委員会としての総括を掲載しています。</p> <p>なお、資料については別冊としています。</p> <p>また、この点検・評価の報告書については、令和4年第3回市議会定例会に提出し、公表については、本市行政資料コーナー及び市ホームページで行いたいと考えています。</p>
西中委員	<p>3点お尋ねしたいと思います。</p> <p>1点は16ページの「信頼される学校づくり」と20ページの「確かな学力の定着と向上」は、過去5年間ずっとBとなっています。10年ほど前に遡って考えてみますと、この評価方法が非常に客観的で、かなりの面でいろいろ数値化もされ、よくなってきていると思いますけれども、Bというのは、ほぼ達成です。恒常的にBという評価は、まあまあいいということにもなりますが、できたら十分達成で、Aをいただくのが一番いいのではないかと思います。</p> <p>そこで、前にも何回も申し上げていますが、目標の設定にA達成についての無理があるのではないかと考えます。ほぼ達成が最終的目標であればいいとは思いますが、私のデータの知る限りでも5年間Bで来ているというのは、目標達成にやっぱり無理があって、なかなか達成しにくいのではないかと思います。目標を下げるということではないんですが、やっぱり目標は、達成する見込みがあるのと、全く達成することが困難で、幾ら努力しても達成できないような目標を設定していつまでもBとかCとかいうようなではなくて、やっぱりみんな努力すればある程度Aを十分達成できる目標値の設定が望まれるのではないかと思います。目標を下げるということではなく、目標の設定の仕方です。全教職員が努力してやればAになるというような目標の設定、それが私は望まれるのではないかと思います。やっぱり目標というのはそういうもので、幾らやっても何年やっても達成しないような目標というのは、私はあまりふさわしくないと思います。目</p>

	<p>的は別ですけれども、最終的な目的というのは、まださらに遠くにあるわけなんです。目標は、各年度の目標ですから。</p> <p>だから、そういう意味では非常に残念で、信頼される学校も5年間ほぼ信頼されているということになるわけで、非常によくやっていたにいなぜほぼ信頼なのかという感想を持つわけです。</p> <p>それから、学力の定着もそうですが、学力の定着で全国を上回る学力、もちろんそれは必要でしょうけれども、みんなで努力したら達成できるような目標値に設定すべきではないかと思います。それが全国的な平均と非常に乖離があったとしても、そういう目標を積み重ねていくことによって、最終的な非常に高い目的に向かってやっていくということで、目標の設定を再度、見直していただけたらいいのではないかと思います。そういった感想です。</p> <p>それから、もう1点は、「外国語活動と英語教育の推進」が各経年4年間Aでしたが、今年度はBということで、なぜBになったかということです。23ページには記載されておりますが、中学校の発話率の向上が困難であったことや、小学校において、教科書を使って楽しく授業を展開させることについて、課題が残ったということですが、こういうことがBに格下げされる要因かなということにちょっと疑問を持ちました。</p> <p>それから、最後に「就学前教育の充実」これもAがBになっていますが、これも評価の説明のところ、主体的・対話的で深い学びの充実が達成できなかったということです。主体的・対話的で深い学びというのは、最終的な目標なんです。だから小、中、幼と通して最終的な目標であって、達成されなかったというのは、目的の達成であって、目標というのはもう少し身近な幼児教育の中で努力すべき内容ではないかなと思います。これも少し目標設定がどうかなと感じましたので、そのことについてももし何かお考えがありましたらお答えください。</p>
<p>次長兼 学校教育課長</p>	<p>20ページの「確かな学力の定着と向上」が近年ずっとBであるということですが、学校教育においては、事務の執行及び管理の執行の状況ということで、毎年度目標を新たに設定しています。ただ、前年度の課題はやはり目標にすべきという部分、それと教育においては理想を含めて実施する部分、これらを兼ね備えた部分がどうしても目標設定には入ってきています。今年度もどちらもBとなってしまっていますけれども、そういう目標の設定の仕方がそもそも無理があるのではないかということです。</p> <p>今年の目標も、例えば16ページに「信頼される学校づくり」の目的と令和3年度の目標ですけれども、②に「開かれた学校づくり」に努めると記載しています。これについても、できる限りのことはさせていただこうということで、その次の実績や効果のところ記載している取組を行っていますけれども、これが満足いくところまで到達できたのか、そういったときに我々としてももっとできたことがあるのではないかなということで、この自己評価の説明に記載しています。</p> <p>それで、目標の設定に無理があるのではということですが、我々としては無理を承知というわけではないので、下げる気もありませんが、1年間で事務や管理に係る目標を持つということ、教育としてはこういうことを重視していきたいというところを併せて設定していますので、この2つについて、今のところBが続いています。</p> <p>ただ、どちらもこの目標設定は、教職員と我々が努力させていただいた上でAにすることができる目標であると考えていますので、よろ</p>

	<p>しくお願いします。</p> <p>2点目ですが、「確かな学力の定着と向上」の「外国語活動」のところですが、これについては、22ページの目的と令和3年度の目標の②の「中学校の英語授業における教員の英語での発話率75%」は前年度までに50%を達成していました。達成したから高い目標を設定したいということで、大阪府もここまでのことは求めていませんが、もし可能であれば75%を目指してほしいという依頼もあり、大阪府の指導主事等にも入っていただいて研修をしてきた関係上、75%を目指してみようということで、昨年度取り組みました。</p> <p>ただ、やはり若干子供たちの理解が追いつかない部分もあり、ここは目標を上げるには少し早すぎたということを感じました。その意味で次年度、4年度に向けて目標を修正いたしました。</p> <p>ここについては、高い目標設定をしたということもありますので、B評価と考えています。</p> <p>最後にご質問いただきました32ページの「就学前教育の充実」ということで、目標の自己評価の説明で主体的に対話できる深い学びの充実について、記載しています。幼稚園の教育要領、小・中学校でいうところの学習指導要領ですが、そちらのほうにも主体的、対話的で深い学びというのが記載されています。就学前の子供たちなりの発達段階に応じたものができる道があるのではないかなということで大学教授の先生に園内研修をお願いしたところではありますけれども、やはり保育を見ている限りではまだまだ消化不足かな、もう少しかみ砕いた研修会の設定が必要だったかなと反省も込め、B評価にさせていただきました。</p>
西村委員	<p>今回、評価委員の先生方からも前回のより非常に見やすく、分かりやすくなったという感想を書いていただいている、確かに私も今回のを見まして、西中委員と同じで、最初の頃、この点検・評価をし始めた頃のことを思い出して、本当に随分分かりやすくなったなという感想を持ちました。</p> <p>そこで、「一部の目標を具体的な数値で掲載していただいております」という評価もいただいております、ちょっと印象に残ったのは、教職員アンケートの数値を見て、プラス5%という数値目標を設定しているところが特に今年度違っているところかなと思ったんですが、そこで質問なんですけれども、教職員アンケートのやり方なり、今まで実際にやっているのかどうか、ここに具体的に現状値という数値が入っていませんので、今までやっていたのがあって、それがどれぐらいという数値があるのかということと、やり方の問題、もう一つは、確かに数値で見えるんだけど、ちゃんとやれていますかみたいな質問項目の答えというのは割と主観的になる部分もあると思います。その辺のアンケートの仕方あるいは答えが主観的になるということで、正確に成果をはかれるのかちょっと疑問という2点をお聞きさせてください。</p>
次長兼 学校教育課長	<p>今回、教職員アンケートという項目が何か所かに入っており、前年度までになかったところです。これまで、教職員向けのアンケートが全くなかったのではなくて、例えば英語教育に係るアンケートであったりとか図書教育に係るアンケートであったりとか、ICT教育アンケートとか、そういう個別の教育課題、案件に対するアンケートなどをやりました。</p> <p>ただ、現状、教職員がどのように感じてどういうふうを考えているのか、自分のことをどう評価しているのか、これは何かトータルとし</p>

	<p>て学校教育課としても把握していく必要があるのではないかとということがありましたので、そういったアンケートを統一するような、それにプラスアルファ、例えば、学力向上、授業改善の取組の教職員自身の考えであったりとか、そういったものをアンケートにおいて把握するために、今年度から始めさせてもらったところです。</p> <p>今年度から実施なんです、今後は毎年度末に今年1年間を振り返っていただいて、どうでしたかということをおんらいん上でのアンケートをしていくことになっています。ただ、今年度に関しては、この夏に教職員向けのアンケートを取っており、それと今年度末を比較しようと考えています。おおよそなんです、5%を目指すというのは、それなりにちょっと低い値が出る可能性があるかなというところは5%にさせていただいたりとか、数値的には割と高い値が出るかなというところはプラス3%であったりとか、予想の段階なんです、今年度から始めますので、ベースの数値は今のところありませんので、そのような表記にさせていただきました。</p> <p>また、教員の主観になるのではないかとという正確性の問題なんです、これは西村委員おっしゃるとおりで、教員が2人、3人いたらそれぞれが違う基準で答えることがあるので、正確とは限らないと考えています。そのためにできるだけトータルに、できるだけ多くの教員に、こちらとしてもほぼ100%の教員に回答してもらおうと思っています。数を取ることでできるだけ教職員の数値の正確性を高めたい。ただ、このアンケートは、ここに幾つかの内容を書いている中で、例えば、先ほど話に出ました就学前教育のことであったりとか、確かな学力の定着と向上であったりとか、それをトータルで表すにはなかなかこのアンケートだけでは難しいかなと考えていますので、あくまでもA評価、B評価するときの参考となるような項目について教職員アンケートをさせてもらい、現在の教職員の状況とか考えということで皆さんに見ていただけたらと考えています。</p>
西村委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>オンラインで取るので手間もかからないし、すごく多分やりやすくなったんだろうなというふうに思いました。</p> <p>また、主観的なものではあるけれども、そういう質問をすることによって問題意識を自覚してもらえるとという効果もあるのかなという感想を持ちました。</p>
佐野委員	<p>新型コロナの感染が3年目に入りまして、学校現場での教育活動も様々な対応に迫られた日々であったなと思っています。そのようなコロナ禍の中で、18ページの「教職員の資質と指導力の向上」のところでA評価されています。本当にオンデマンド型の研修とカリモート型研修を実施していただいたり、継続的な授業力向上の支援について充実していただいている、そういう高石市のGIGAスクール構想ですけれど、効果的に実施することができたというふうに自己評価していただいている、本当に大変な中、よくここまでしていただけたなと喜んでます。</p> <p>20ページ、21ページの「確かな学力の定着と向上」のところで、いろいろ小・中学校を数値的に比較されて、どの項目も上がっています。ここは令和4年は65%を目指すとなっていますけれども、Aであってもよかったんじゃないかなと思っています。西中委員からの指摘がありましたように先生も頑張っている、子供たちも頑張っているというような目標を立てたときは、遠慮なくAをつけたらどうかと思います。この報告書の文字の中から先生方の努力や教育委員会の皆</p>

	<p>さんの努力がしみじみと感じましたので、そのように思いました。また、26 ページの「支援教育の充実」のAもよかったなと思っています。</p> <p>最後に、38 ページの文化財の保護では、高石市と岸和田市がいろいろ提携したわけですが、この16日から21日までアプラで遺跡の展示をしていただけたということで、そういうふうなことも考えていただけていて、最初、提携したらどうなるのかなとちょっと心配しましたが、こういうようなことが計画されていていいのでよかったなと思っています。</p> <p>今後とも、いろいろ課題があるかと思いますが、教育委員会と現場が本当に団結していただいて、子供たちの学力の向上に尽力していただけたらなと思っています。</p>
吉村委員	<p>評価委員の先生の評価の中にある数値目標を設定するような、第三者から見てやっぱり分かりやすいというのがあるので、できるところは数値目標を立ててやっていただいたほうが、数値が独り歩きしたら非常に問題があるんですけども、できるところはしていったほうが第三者からは分かりやすいかなという気はします。</p> <p>もう一つ、全体的に、特に学校教育課の部分なんですけど、いろんな講習会や講師を招いているいろんな勉強はされているんですけども、逆に高石市のここが進んでいて、視察に来られている部門とかもあると思います。教育委員会で優秀教員に選ばれた先生方もおられますので、そういう高石市から発信したものというのがあれば、ちょっと載せていただいき、そういうのを目標にしてしていただけたらと思います。せっかく優秀な先生方もおられ、評価の高い研究などもされていますので、その辺をぜひ評価として載せたほうが現場としてはやる気が出るのではないかという気がしました。もしあれば、ぜひ反映できればしていただきたいと思います。</p>
木寄教育長	報告があったものとして処理します。

・報告第2号 職員の人事異動について

教育総務課長	<p>本報告は、高石市教育委員会通則第2条第3項の規定に基づき、教育長が臨時に代理した令和4年8月1日付の職員の人事異動について、報告するものです。</p> <p>内容については、5ページ記載のとおりです。</p>
木寄教育長	報告があったものとして処理します。

・報告第3号 教育委員会の後援等に関する報告について

教育総務課長	<p>本報告は、高石市教育委員会の後援等に関する規程第2条第1項の規定に基づき処理したのものについて、同条第2項の規定により、7ページ記載の学校教育課1件、社会教育課7件の計8件の報告をするものです。</p>
木寄教育長	報告があったものとして処理します。

・報告第4号 教育委員会関係諸行事等の報告について

各所属長	<p>令和4年7月13日から令和4年8月9日までの当委員会関係諸行事について説明。</p>
木寄教育長	報告があったものとして処理します。